

## 2008年暮らし向き調査結果

当センターでは、県内の消費行動を探るため南都銀行 32 か店の来店客（700 名）を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

### 《要 約》

#### ①暮らし向き動向

1年前（2007年）と比べた現在の暮らし向きDI（※）は $\Delta 48.2$ で、1年前（ $\Delta 24.3$ ）に比べ23.9ポイント低下している。また、今後（1年間）の暮らし向きDIは $\Delta 51.3$ で現在よりも3.1ポイント悪くなる予想となっている。

（※）DI（Diffusion Index）とは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、質問に対して「プラス（良い、増加等）」、「中立（変わらない）」、「マイナス（悪い、減少等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した割合から「マイナス」と回答した割合を差し引きした指数をDIという（以下同様）。

#### ②消費支出動向と増減理由等

現在の消費支出DIは32.1となり、1年前と比べて3.6ポイント低下した。年代別では、60歳以上のDI（26.2）が最も低かった。消費支出が減少した理由は「節約した」（36.6%）が最も多く、減少した項目は「飲食料品」（49.0%）が最も多かった。

今後1年間の消費支出DIは、マイナスに転じ $\Delta 42.8$ となった。消費支出DIが最も低いのは29歳以下（ $\Delta 51.1$ ）、最も高いのは60歳以上（ $\Delta 37.6$ ）であった。

#### ③貯蓄目的

「老後の備え」、「病気や不時の災害への備え」が、前回同様高い水準となっている。

#### ④今後購入・支出予定の品目

上位から「プラズマ・液晶テレビ」（27.8%）、「国内旅行」（27.7%）、「教育・自己啓発費」（19.7%）となった。前回よりも購入・支出予定が増えたのは「プラズマ・液晶テレビ」（6.2ポイント上昇）、「家具・インテリア用品」（3.5ポイント上昇）など6項目であった。

#### ⑤消費行動

買物をする際に重視する項目は「価格」（62.2%）が最も高く、次いで「品質」（50.3%）、「機能性」（32.4%）、「デザイン」（29.4%）となった。

#### ⑥サービス・レジャー等の支出

1年前と比べた現在の支出DIは「二泊以上の旅行（海外旅行含む）」（ $\Delta 38.0$ ）が最も低く、続いて「一泊旅行」（ $\Delta 33.3$ ）となった。すべての項目で支出DIは低下した。

#### ⑦買い物・レジャー等の支出

今後の買い物やレジャーの支出DIは $\Delta 36.8$ となり、前回より13.3ポイント低下した。「減らす」理由としては、「進学・出産・転居等特別な支出がある」（33.4%）が最も多い。前回よりも増えている項目は、「気分的に消費意欲がわからない」（12.4ポイント上昇）であった。

## 1. 暮らし向き動向

<現在>

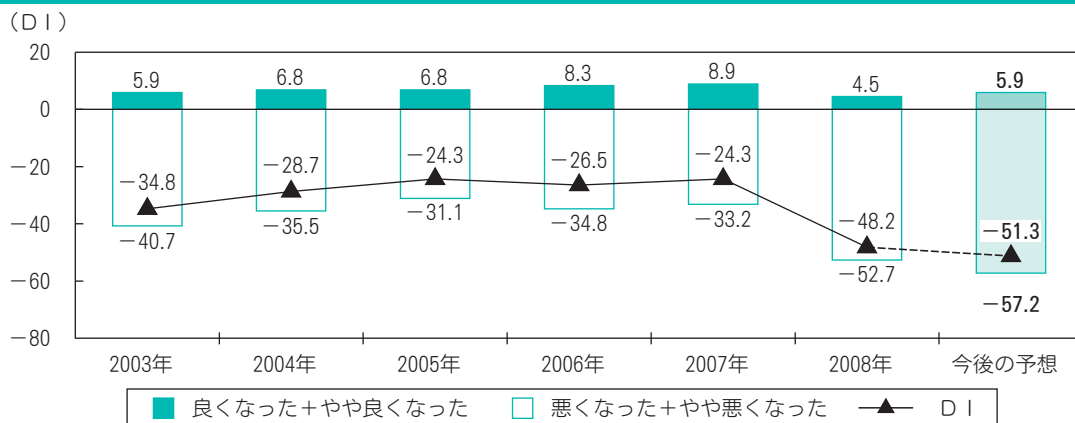
1年前（2007年）と比べた全体の暮らし向きを見ると、暮らし向きDIは $\Delta 48.2$ となり、前回（ $\Delta 24.3$ ）よりも23.9ポイント低下し、暮らし向き感は悪くなっている。

年代別に見ても、すべての年代で、暮らし向きDIが低下している。

暮らし向きDIが最も低いのは、40代 $\Delta 56.6$ であった。前回より低下の割合が最も大きいのは30代で34.1ポイント（ $\Delta 12.2 \rightarrow \Delta 46.3$ ）低下した。

1998年以降で見ると、今回の暮らし向きDIは過去最低の水準となった。

現在の暮らし向きDI（1年前に比べ）



<今後1年間（2009年）>

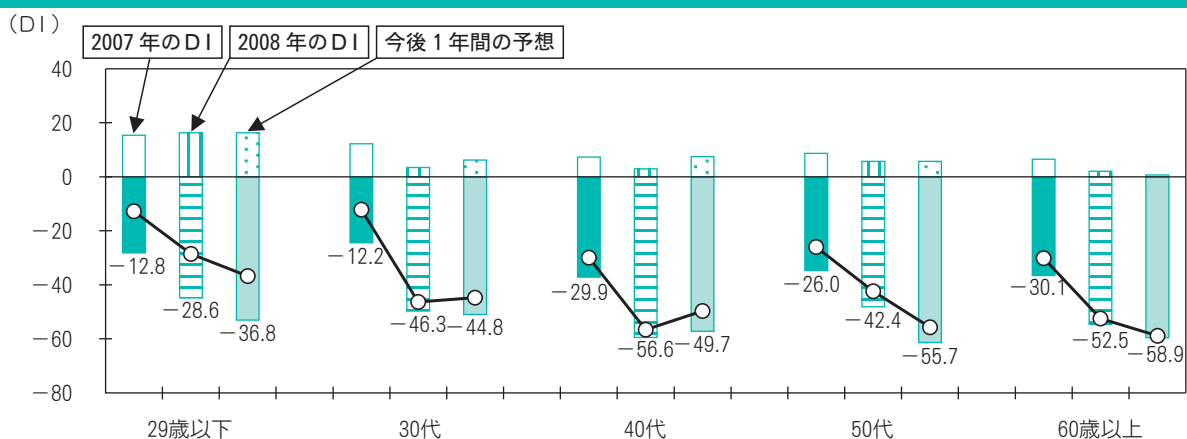
今後1年間の暮らし向き予想としては、全体の暮らし向きDIが $\Delta 51.3$ と現在よりもさらに3.1ポイント悪くなると予想している。

年代別に見ると、暮らし向きが現在より良くなると答えたのは、30代1.5ポイント上昇と、40代6.9ポイント上昇だけであった。

そのほかの年代は、現在よりも悪くなると答えた。29歳以下ではDIが8.2ポイント低下、50代13.3ポイント低下、60歳以上6.4ポイント低下であった。

今後の暮らし向き予想は、先行きに不透明感が残る結果となった。

年代別暮らし向きDI



## 2. 消費支出動向

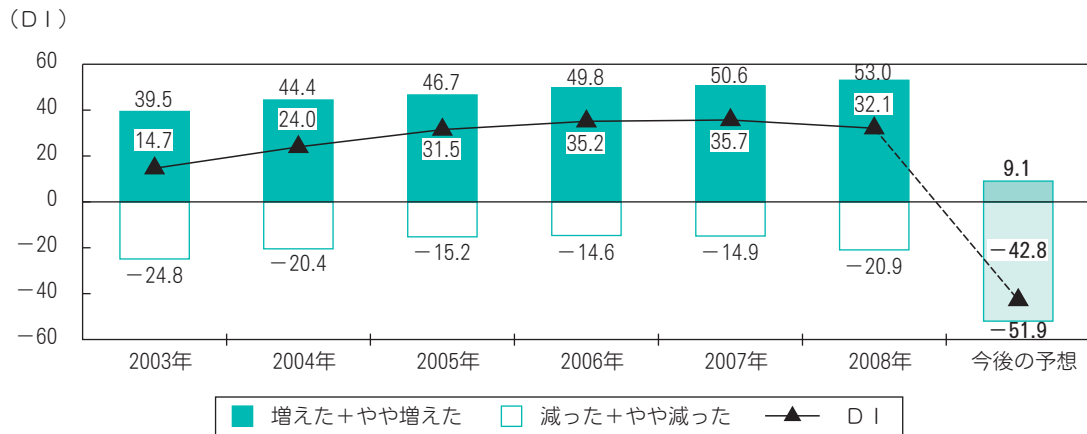
<現在>

1年前（2007年）と比べた全体の消費支出DI（以下消費DIという）は32.1で、前回（35.7）より3.6ポイント低下した。

年代別で消費DIが最も高いのは40代35.9で、最も低いのは60歳以上26.2であった。

前回より消費DIが高くなったのは29歳以下16.8ポイント上昇と、60歳以上5.3ポイント上昇であった。一方、消費DIが低くなったのは、30代9.5ポイント低下、40代9.4ポイント低下、50代4.5ポイント低下であった。

現在の消費支出DI（1年前に比べ）

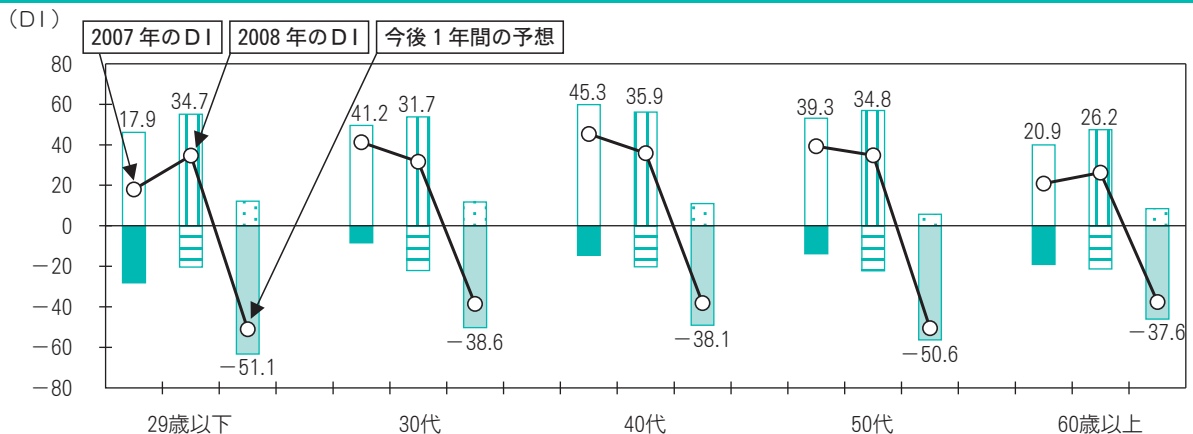


<今後1年間（2009年）>

今後1年間の消費DIの予想は、マイナスに転じて△42.8になり、現在の消費DIから大きく低下した。これから先の消費支出を減らすと答えた人の割合が51.9%あり、先行きに不安を感じている人が多いことがうかがえる。

年代別では、29歳以下△51.1と、50代△50.6の消費DIが特に低くなっている。この2つの年代では、現在の消費DIから29歳以下が85.8ポイント、50代は85.4ポイントそれぞれ低下すると予想している。消費DIが最も高いのは60歳以上（△37.6）であった。

年代別消費支出DI



## 3. 消費支出の増減理由等

### (1) 消費支出の増加理由および増加項目

1年前（2007年）と比べた消費支出が「増加した」と答えた368人を対象に、その理由をたずねた結果、「出費がかさなった」が53.5%で最も多かった（図表不掲載）。

支出が増加した項目（複数回答）は「飲食料品」が54.1%で最も多く、続いて「自動車関連」（35.1%）、「保健医療」（23.6%）の順となった。

年代別に増加した項目を比べてみると、すべての年代で「飲食料品」が50%以上を占めた。2番目に増加した項目は、29歳以下「住居」（33.3%）、30代「自動車関連」（44.9%）、40代「教育」（42.3%）、50代「自動車関連」（33.3%）、60歳以上「保健医療」（40.3%）であった。

### (2) 消費支出の減少理由および減少項目

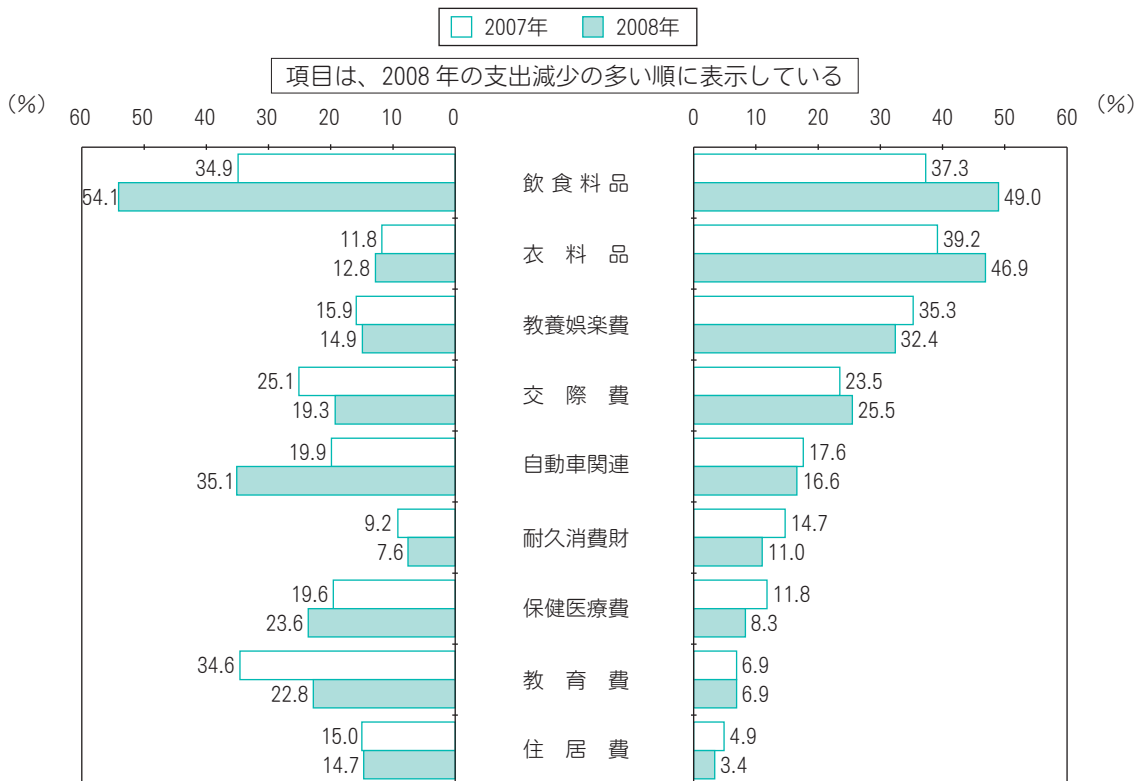
1年前（2007年）と比べた消費支出が「減少した」と答えた145人を対象に、その理由をたずねた結果、「節約した」（36.6%）が最も多く、次に「物価が高くなった」（30.3%）となった（図表不掲載）。

支出が減少した項目（複数回答）は「飲食料品」（49.0%）が最も多く、続いて「衣料品」（46.9%）、「教養娯楽」（32.4%）、「交際費」（25.5%）の順となった。

年代別に最も減少した項目を比べてみると、「飲食料品」を減らしたのは30代（53.1%）、40代（48.6%）であった。「衣料品」を減らしたのは29歳以下（60.0%）、50代（57.1%）、60歳以上（60.0%）であった。

支出が増加した費目（複数回答）

支出が減少した費目（複数回答）



#### 4. 貯蓄目的（複数回答）

<全体>

今後1年間の貯蓄額については「増やす」（32.4%）、「減らす」（13.1%）となり、貯蓄DIは19.3で前回よりも0.5ポイント低下した。

年代別に、今後1年間の貯蓄DIを比べると、29歳以下の貯蓄DIが最も高く46.9と、そのほかの年代と比較して2倍ほどの割合になった。続いて50代（24.7）、30代（22.0）、60歳以上（12.8）、40代（10.9）となった。

貯蓄の目的では、「老後の備え」（45.0%）が最も多かった。次に「病気や不時の災害への備え」（39.8%）、「教育資金」（31.1%）が続き、順番も割合も前回とほとんど同じ傾向であった。

<年代別>

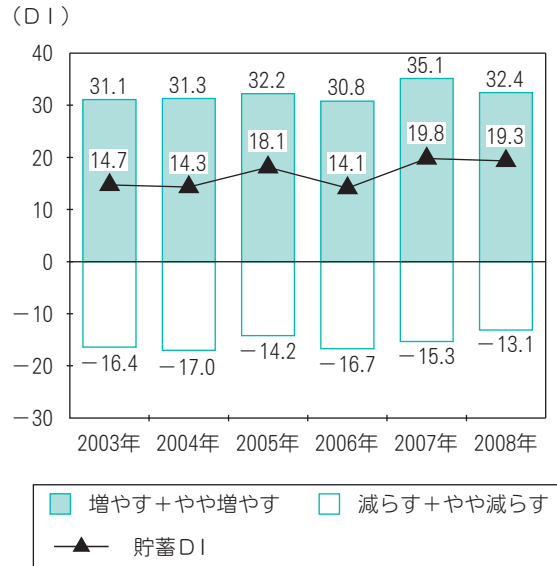
年代別に貯蓄目的を比べてみると、29歳以下、30代、40代では「教育資金」が最も多かった。第2位の項目は、29歳以下では「住宅資金」（30.6%）が多く、30代「不時の備え」（36.6%）、40代「老後の備え」（42.8%）となっていた。

40代以降の年代では、「老後の備え」が貯蓄目的としての割合が高く、年金の先行き不安や、介護費用に対する備えの必要性を強く持っている様子がうかがわれる。

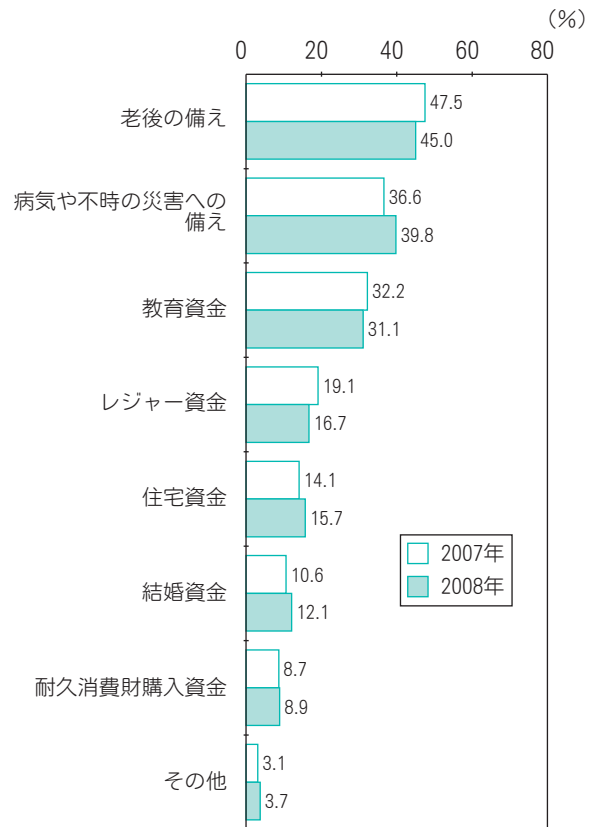
年代別貯蓄の目的の上位2項目

|       | 第1位              | 第2位              |
|-------|------------------|------------------|
| 29歳以下 | 教育資金<br>(40.8%)  | 住宅資金<br>(30.6%)  |
| 30代   | 教育資金<br>(55.2%)  | 不時の備え<br>(36.6%) |
| 40代   | 教育資金<br>(49.1%)  | 老後の備え<br>(42.8%) |
| 50代   | 老後の備え<br>(55.7%) | 不時の備え<br>(43.0%) |
| 60歳以上 | 老後の備え<br>(65.2%) | 不時の備え<br>(48.2%) |

今後1年間の貯蓄DI



貯蓄の目的（複数回答）



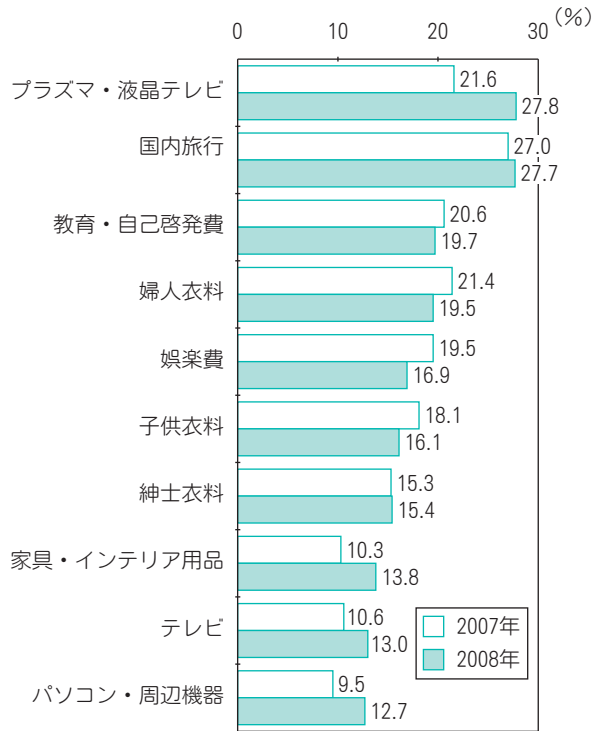
## 5. 今後購入・支出予定の品目（複数回答）

購入・支出予定の品目で最も多いのは「プラズマ・液晶テレビ」（27.8％）で、続いて「国内旅行」（27.7％）、「教育・自己啓発費」（19.7％）の順となった。前回よりも、購入・支出予定が増えたのは「プラズマ・液晶テレビ」（6.2ポイント上昇）、「家具・インテリア用品」（3.5ポイント上昇）、「パソコン・周辺機器」（3.2ポイント上昇）、「テレビ」（2.4ポイント上昇）など6項目であった。

年代別の特徴を見てみると、29歳以下と50代は「プラズマ・液晶テレビ」が最も多かった。30代は「子供用衣料」と「国内旅行」が多く、40代は「教育・自己啓発費」、60歳以上は「国内旅行」が多かった。

既婚・未婚別では、既婚者は「プラズマ・液晶テレビ」が多く、未婚者では「娯楽費」が多かった。

今後購入・支出予定の品目  
（上位10品目；複数回答）



今後購入・支出予定の品目（複数回答）（年代別・既婚未婚別）

=各年代等で最も多い項目 (%)

| 購入予定商品    | 合計             | 年代別   |      |      |      |       | 既婚・未婚別 |      |      |
|-----------|----------------|-------|------|------|------|-------|--------|------|------|
|           |                | 29歳以下 | 30代  | 40代  | 50代  | 60歳以上 | 既婚     | 未婚   |      |
| 耐久消費財     | 冷暖房器具・エアコン     | 9.8   | 20.4 | 11.0 | 8.1  | 8.9   | 9.2    | 10.9 | 6.3  |
|           | テレビ            | 13.0  | 14.3 | 10.3 | 12.7 | 12.7  | 15.6   | 13.0 | 10.1 |
|           | プラズマ・液晶テレビ     | 27.8  | 36.7 | 24.8 | 30.6 | 27.8  | 27.0   | 29.4 | 23.3 |
|           | DVDレコーダー       | 9.9   | 16.3 | 11.0 | 9.8  | 12.0  | 5.0    | 9.5  | 10.7 |
|           | パソコン・周辺機器      | 12.7  | 18.4 | 13.8 | 12.1 | 15.8  | 7.8    | 11.7 | 18.2 |
|           | デジタルカメラ・ビデオカメラ | 4.6   | 8.2  | 8.3  | 4.6  | 1.9   | 3.5    | 3.9  | 6.3  |
|           | 食器洗い乾燥機        | 1.2   | 2.0  | 0.0  | 1.2  | 1.3   | 2.1    | 1.0  | 1.3  |
|           | 乗用車            | 12.1  | 10.2 | 11.0 | 13.3 | 15.2  | 10.6   | 11.5 | 13.8 |
| 衣料品・サバイブス | 靴・ハンドバッグ       | 9.5   | 6.1  | 6.9  | 9.2  | 14.6  | 7.8    | 7.8  | 16.4 |
|           | 紳士物衣料          | 15.4  | 18.4 | 19.3 | 18.5 | 16.5  | 7.1    | 15.8 | 14.5 |
|           | 婦人物衣料          | 19.5  | 16.3 | 17.2 | 19.1 | 24.7  | 16.3   | 18.3 | 23.3 |
|           | 子供用衣料          | 16.1  | 18.4 | 33.1 | 22.5 | 6.3   | 2.8    | 21.2 | 3.1  |
|           | 家具・インテリア用品     | 13.8  | 28.6 | 15.2 | 12.7 | 13.9  | 9.9    | 13.0 | 18.9 |
|           | スポーツ・レジャー用品    | 7.5   | 4.1  | 11.0 | 6.9  | 7.6   | 6.4    | 7.0  | 8.8  |
|           | 国内旅行           | 27.7  | 16.3 | 33.1 | 23.7 | 25.3  | 35.5   | 29.2 | 25.8 |
|           | 海外旅行           | 12.1  | 14.3 | 6.9  | 9.2  | 14.6  | 18.4   | 9.7  | 20.8 |
| その他       | 教育・自己啓発費       | 19.7  | 20.4 | 22.8 | 35.3 | 12.0  | 8.5    | 23.3 | 13.2 |
|           | 娯楽費            | 16.9  | 24.5 | 17.2 | 16.8 | 18.4  | 14.2   | 13.4 | 27.7 |
|           | その他            | 4.3   | 4.1  | 1.4  | 5.8  | 5.7   | 5.0    | 4.3  | 3.8  |

## 6. 消費行動（複数回答）

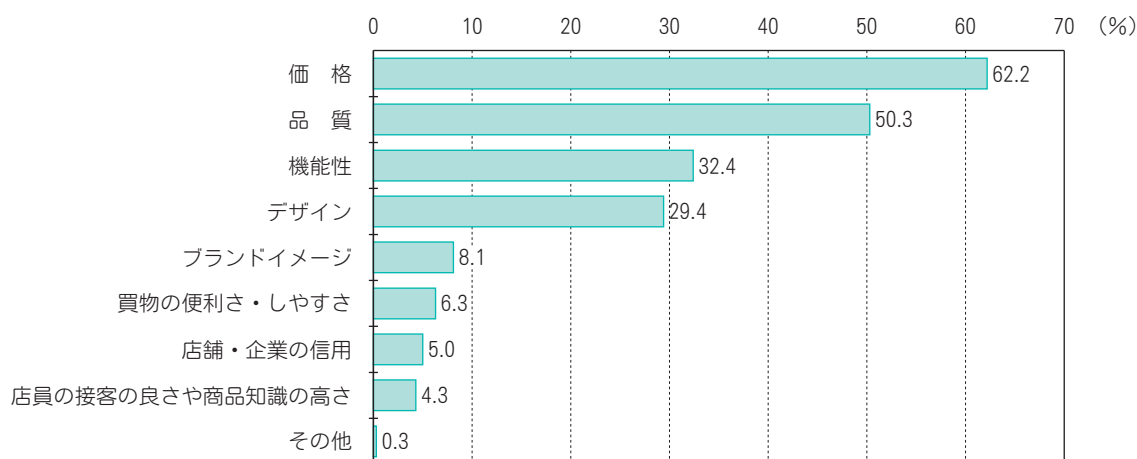
洋服や家電製品を購入する際に重視する項目で最も多いのは「価格」（62.2%）で、次いで「品質」（50.3%）、「機能性」（32.4%）「デザイン」（29.4%）となった。

年代別にみると、29歳以下から50代までは、「価格」に次いで「品質」を重視しているが、60歳以上では「品質」を最も重視し、次に「価格」を重視していると回答した。

29歳以下では「デザイン」を重視すると答えた人が、二人に一人の割合（51.0%）であったが、そのほかの年代は三人または四人に一人の割合であった。

既婚・未婚別は、「価格」、「品質」が上位を占めるのは同じであるが、3番目には既婚者が「機能性」（34.6%）を重視したのに対し、未婚者は「デザイン」（41.5%）を重視した。

買物をする際の重視項目（複数回答）



買物をする際の重視項目（複数回答）（年代別・既婚未婚別）

■ = 各年代等で最も多い項目 (%)

|       | 価格   | 品質   | 機能性  | デザイン | ブランドイメージ | 買物の便利さ・しやすさ | 店舗・企業の信用 | 店員の接客・商品知識 | その他 |
|-------|------|------|------|------|----------|-------------|----------|------------|-----|
| 合計    | 62.2 | 50.3 | 32.4 | 29.4 | 8.1      | 6.3         | 5.0      | 4.3        | 0.3 |
| 29歳以下 | 57.1 | 55.1 | 22.4 | 51.0 | 12.2     | 6.1         | 4.1      | 2.0        | 0.0 |
| 30代   | 66.2 | 46.2 | 40.0 | 33.8 | 6.2      | 4.1         | 6.2      | 6.2        | 1.4 |
| 40代   | 67.6 | 49.7 | 30.1 | 25.4 | 8.1      | 6.9         | 5.2      | 3.5        | 0.0 |
| 50代   | 68.4 | 46.8 | 33.5 | 32.3 | 9.5      | 7.0         | 2.5      | 5.1        | 0.0 |
| 60歳以上 | 47.5 | 59.6 | 31.2 | 20.6 | 7.1      | 8.5         | 6.4      | 3.5        | 0.0 |
| 既婚    | 62.6 | 52.7 | 34.6 | 25.1 | 6.2      | 8.0         | 6.0      | 4.7        | 0.4 |
| 未婚    | 65.4 | 46.5 | 25.8 | 41.5 | 13.2     | 2.5         | 3.8      | 3.8        | 0.0 |



## 7. サービス・レジャー等の支出

<現在>

1年前（2007年）と比べたサービス・レジャー等に関する支出DIは、「二泊以上の旅行（海外旅行含む）」（△38.0）が最も低く、続いて「一泊旅行」（△33.3）となった。

前回と比べるとすべての項目で支出DIが低下した。支出DIが最も低下したのは「外食費」（17.4ポイント低下）、続いて「教養娯楽費用」（10.4ポイント低下）、「一泊旅行」（9.4ポイント低下）、「スポーツ関連利用費用」「その他の娯楽」（ともに9.2ポイント低下）であった。

「外食費」は29歳以下を除くすべての年代で、前回よりも20ポイント程度低下している。「教養娯楽費用」は、29歳以下（27.0ポイント低下）で最も低下が大きかった。

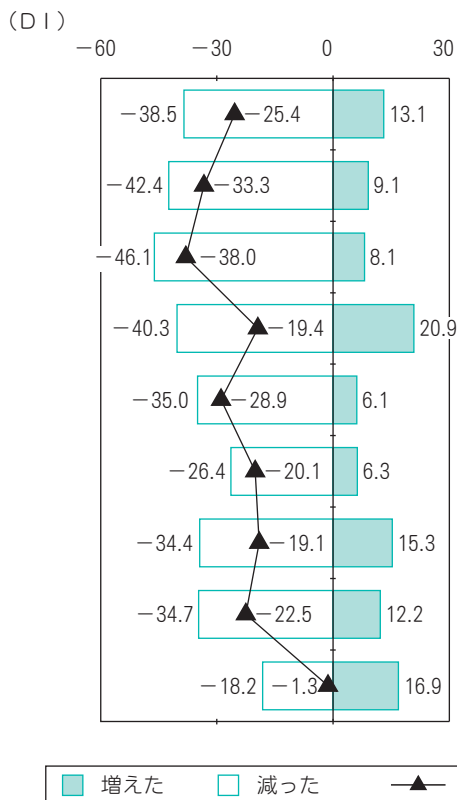
<今後1年間（2009年）>

今後1年間に、サービス・レジャー等の支出で増やそうと考えているもの（複数回答）は、多い順に「一泊旅行」（26.9%）、「日帰り旅行」（24.9%）、「二泊以上の旅行（海外旅行も含む）」（21.3%）であった。

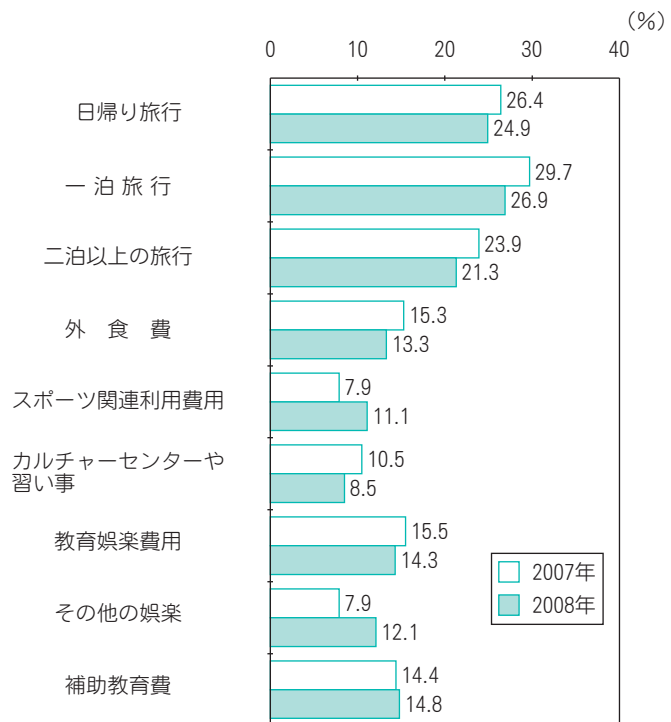
支出を増やそうと考えている人が多い3項目は、前回と同様であるが、支出を予定している人の割合は前回よりもそれぞれ2ポイント程度低下している。

年代別で見ると、29歳以下で「日帰り旅行」「一泊旅行」「その他の娯楽」（すべて30.6%）の3項目が最も多く、60歳以上は「一泊旅行」「二泊以上の旅行（海外旅行も含む）」（どちらも29.1%）が最も多かった。

1年前と比べた支出



今後1年間に支出を増やそうと考えているもの





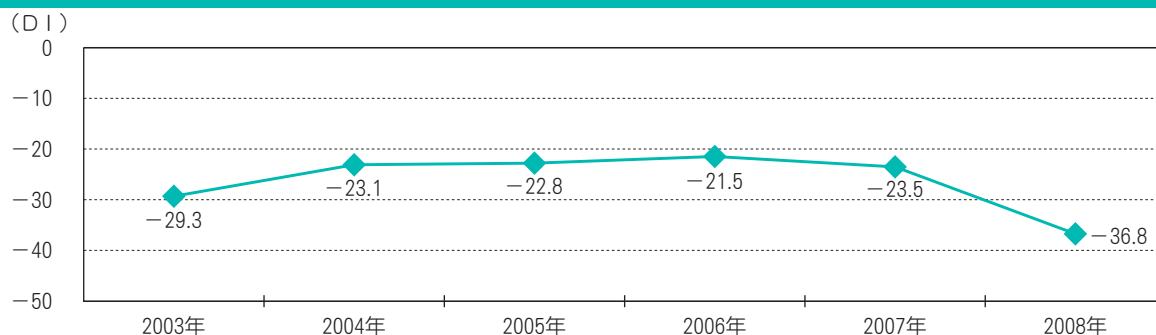
## 8. 買い物・レジャー等の支出（複数回答）

今後の買い物やレジャー支出について「増やす」と答えたのは76人（11.0%）、「減らす」は332人（47.8%）、「考えていない」273人（39.3%）となり、支出DIは△36.8と前回より13.3ポイント低下した。

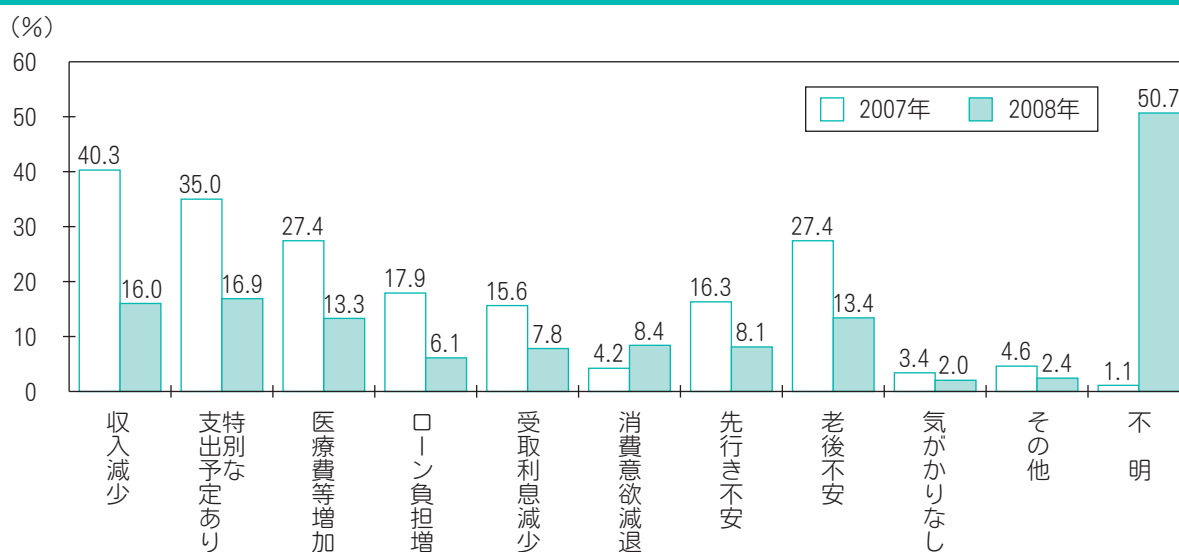
「減らす」と答えた332人を対象に、その理由をたずねた結果、「進学・出産・転居等特別な支出予定あり」（33.4%）が最も多い。前回よりも増えている項目は、「気分的に消費意欲がわからない」（12.4ポイント上昇）であった。逆に減少したのは、「世帯の収入が減った」（8.1ポイント低下）、と「ローン負担が重い」（5.6ポイント低下）が目立った項目であった。

「支出を減らそうと思う理由」について、項目別に最も多い年代を見ると、「世帯の収入が減った」は50代（42.6%）、次いで60歳以上（38.0%）であった。「進学・出産・転居等特別な支出予定あり」は40代（49.5%）、続いて30代（48.4%）、29歳以下（45.8%）であった。「医療費や税金など負担が増えた」は60歳以上（36.6%）、「ローン負担が重い」は40代（19.6%）、「預貯金の受取利息の減少」は60歳以上（21.1%）、「気分的に消費意欲がわからない」は30代（24.2%）、「雇用の先行き不安」は30代（25.8%）、「老後の生活不安」は60歳以上（38.0%）で最も多かった。（奥 桂子）

今後の買い物やレジャーへの支出DI（各年における翌年の支出予想）



支出を減らそうと思う理由（複数回答）



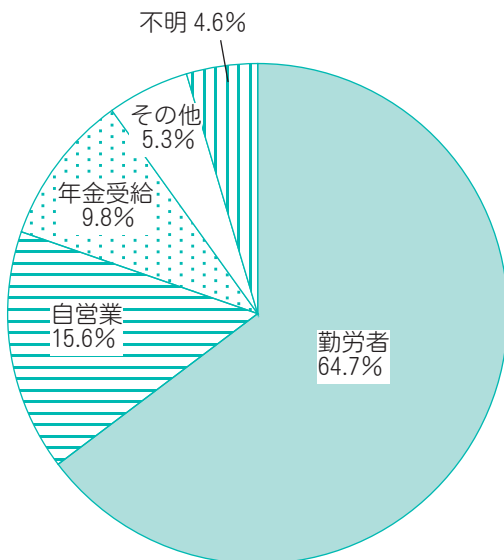
## 【調査要領】

- (1) 調査場所…… 次に掲げる奈良県下の南都銀行店舗 32 家店  
 本店営業部、紀寺、西大寺、西ノ京、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、  
 天理、天理南、桜井、榛原、大淀、高田、高田本町、馬見、香芝、真美ヶ丘、新庄、御所、  
 橿原、神宮前、王寺、西大和、三郷、平群、法隆寺、田原本、五条
- (2) 調査日…… 2008 年 10 月 2 日
- (3) 調査方法…… 上記店頭において無記名で記入
- (4) 調査対象者数 700 人  
 うち有効回答者数 694 人  
 有効回答率 99.1%
- (5) 調査対象者の属性

(上段：人、下段：構成比 %)

| 年 齢     | 29歳以下      | 30 代        | 40 代        | 50 代        | 60歳以上       | 不 明        | 合 計          |
|---------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|--------------|
| 未 婚 男 性 | 18<br>21.4 | 16<br>19.0  | 14<br>16.7  | 25<br>29.8  | 5<br>6.0    | 6<br>7.1   | 84<br>100.0  |
| 未 婚 女 性 | 5<br>6.7   | 7<br>9.3    | 11<br>14.7  | 22<br>29.3  | 22<br>29.3  | 8<br>10.7  | 75<br>100.0  |
| 既 婚 男 性 | 6<br>3.4   | 49<br>27.8  | 50<br>28.4  | 33<br>18.8  | 36<br>20.5  | 2<br>1.1   | 176<br>100.0 |
| 既 婚 女 性 | 19<br>6.2  | 66<br>21.6  | 88<br>28.9  | 67<br>22.0  | 64<br>21.0  | 1<br>0.3   | 305<br>100.0 |
| 不 明     | 1<br>1.9   | 7<br>12.9   | 10<br>18.5  | 11<br>20.4  | 14<br>25.9  | 11<br>20.4 | 54<br>100.0  |
| 合 計     | 49<br>7.1  | 145<br>20.9 | 173<br>24.9 | 158<br>22.8 | 141<br>20.3 | 28<br>4.0  | 694<br>100.0 |

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

